

## 講師のプロフィール

### くま がい 熊谷カネ



北海道様似郡様似町生まれ。

アイヌが多く居住する岡田コタンで、熊射ちでありカムイノミの伝承者であった父・岡本総吉、歌謡や口承文芸の伝承者として活躍した母・岡本ゆみの末娘として生まれ育つ。

1965(昭和40)年に結成された北海道ウタリ協会様似支部には発足時から参加し、特に1983(昭和58)年に発足した文化保存部(様似民族文化保存会の前身)で長年アイヌ文化の伝承活動に取り組み、現在は様似民族文化保存会会長を務める。

1997(平成9)年より様似アイヌ語教室の運営に携わり、講師も務める。2002(平成14)年にはアイヌ語弁論大会で最優秀賞を受賞し、現在は審査員を務める。その他、各地で講演を行っている。

## 協力者の紹介

おお の てつ ひと  
大野徹人

様似町ウタリ生活相談員。このテキストの原稿執筆を担当。

なか がわ ひろし  
中川裕

千葉大学文学部教授。このテキスト作成にあたって助言。

### 【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

このテキストでは、様似地域で話されてきたアイヌ語(様似方言)を勉強します。

このテキストの内容は、これまでの研究者・放送局による記録・研究、様似民族文化保存会・様似アイヌ語教室での調査・学習に基づいて、講師と相談しながら作ったものです。詳しいことについては36ページをご覧ください。

また、このテキストでのアイヌ語のカタカナ表記は、『アコロイタク』(北海道ウタリ協会、1994)の表記にほぼ従っていますが、小さなラリルレロ(音節末子音のr)のうち、イ段の「リ」以外のものは、様似方言で実際に聞かれる発音の傾向を考慮して、一つの試みとしてすべて統一的に「ル」としてあります。

ローマ字表記については、アイヌ語は『アコロイタク』に準じ、日本語からそのまま取り入れた言葉は社団法人日本ローマ字会の定めた表記で、英語などから日本語に入って使われている外来語はもとのローマ字の綴りで表記しています。

### 【様似アイヌ語教室について】

様似アイヌ語教室は、毎月第2・4金曜日に北海道ウタリ協会様似支部(様似町総合福祉センター内、東様似生活館2階)で行われています。お問い合わせは以下の連絡先をお願いします。

北海道ウタリ協会様似支部

〒058-0014 北海道様似郡様似町大通2丁目 TEL 0146-36-5656

## アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	Lesson	テ - マ	ページ
1月	7日	41	「～を○○しよう」の言い方	4
	14日	42	文章の最後につける「ナ」	6
	21日	43	「～しますか?」の言い方	8
	28日	44	「～したい」の言い方	10
2月	4日	45	理由や目的を表す「クス」	12
	11日	46	トウイタク(神様の物語)	14
	18日	47	「どこ」の言い方	16
	25日	48	「何」の言い方	18
3月	4日	49	「～しても」の言い方	20
	11日	50	ヤイラブ(英雄叙事詩)	22
	18日	51	アイヌ語劇	24
	25日	52	応用会話	26

例文

1 ポロリムセ アンキ ノ。  
pororimse an=ki no.  
輪踊り 私たち・する しよう (輪踊りをしましょう。)

2 ヤマウ アンカル ワ アンエ ノ。  
yamaw an=kar wa an=e no.  
ヤマウ 私たち・作る ～して 私たち・食べる しよう  
(ヤマウを作って食べましょう。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アン	an=	私たち。
エ	e	～を食べる。
カル	kar	～を作る。
キ	ki	～をする。
ノ	no	～しましょう。
ポロリムセ	pororimse	輪踊り。ポロ=大きい、リムセ=踊り。お祭や行事で、最後に締めくくりによくやります。みんなで輪になって踊ります。
ヤマウ	yamaw	ヤマウ。冷たくして食べるアイヌ料理です。語源はヤム・オハウ(冷たい・汁)のようです。レッスン20(テキストVol.2)のコラムで触れましたので詳しくはそちらをご覧ください。
ワ	wa	～して。

言葉の解説

○言葉の解説  
レッスン40で「～しましょう」という言い方を習いましたが、ここでは「～を食べましょう」「～をしましょう」「～を見ましょう」「～を聞きましょう」のような「～を○○しましょう」という言い方を習います。  
レッスン33で習った「私たちは～を○○する」と言う時に使う「アン○○」という言葉の後ろに「ノ」をつけます。「私たち」の意味の「アン」を省略することはできません。

例 映画を見ましょう。  
○ 映画 アンヌカル ノ。  
× 映画 ヌカル ノ。

なお、この「ノ」の前に小さなラ行の音(ラリルレロ/ローマ字ではr)が来た場合、「ン/ローマ字ではn」に変化することがあります。

例 アンカル ノ(～を作らしましょう) → アンカン ノ  
アンヌカル ノ(～を見ましょう) → アンヌカン ノ

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 地下鉄に乗ろう。( ) ( ) ( )。  
オ o 乗る アン an= 私たち  
ノ no しよう 地下鉄 TIKATETU 地下鉄

2 苦小牧に行って安い部屋を探そう。  
( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )。  
アン =an 私たち トウンブ tumpu 部屋  
トマコマイ Tomakomai 苦小牧 アン an= 私たち  
エン en に パイエ paye 行く  
アタイサク ataysak 安い エスタン estan 探す  
ワ wa ～して ノ no しよう

ウポポ アイェノ!  
(歌を歌いましょう)

— シントコ サン(行器が出る) —

「ウポポ」とは「歌」を指す言葉ですが、胆振から日高西部にかけては特に「座り歌」のことを指します。しかし様似付近では特にそういう限定された意味はないようです。ウポポにはいろいろあって、単に歌だけ歌うものもあれば、踊りを伴うものもあります。地方・場合によっては「歌と踊り」を含めてウポポと言うこともあります。たとえばエムシリムセ(剣の舞)のことをエムシウポポと言う地方(旭川など)もあります。なお、表題の「アイェ」は「アン・イエ(私たち・歌う)」の発音が変わった形です。

このコラムでは、岡本ゆみさん・泉谷ネコンネーテクさん・木村チセさん・相川コトさんらによって伝承されていた歌を紹介します。みんなで一緒に歌いましょう。

さて、今回は岡本ゆみさんによって伝承されていた歌を紹介します。

シントコ	サン	カムプ	サン
行器	出る	ふた	出る

この歌に合わせて踊ることもあります。

シントコとは、本州で作られた漆塗りの曲げもので、和人と交易でアイヌが手に入れて使っていたものです。日本語で「行器」と言います。家の中に宝物として飾ったり、お酒を造る時に使われました。

なお、1つ1つのウポポにははっきりとした題名がついていることは非常に少なく、歌詞の最初の部分で呼ぶことが多いです。

例文

1 タント メアン ナ。  
 tanto mean na.  
 今日 寒い よ (今日は寒いよ。)

2 カンピソシ ポロンノ クコル ナ。  
 kampsisos poronno ku=kor na.  
 本 たくさん 私・持つ よ (私は本をたくさん持ってるよ。)

単語

アイヌ語	日本語訳
カンピソシ kampsisos	本。カンピは紙の意味で、ソシはあまり使われる言葉ではないですが、「薄いもの束」のような意味のようです。日本語をそのまま取り入れてホンと言っていた地方もあるようです。
ク ku=	私。
コル kor	～を持つ。
タント tanto	今日。
ナ na	～よ。
ポロンノ poronno	たくさん。
メアン mean	寒い。

言葉の解説

今回習う「ナ」という言葉は文章の最後につける言葉で非常によく使われます。  
 例文1の場合、単に「タント メアン」と言ってもいいのですが、文章の最後に「ナ」をつけると、語感が柔らかくなります。日本語で言いますと「寒いよ」の「よ」に近いニュアンスでしょうか。  
 また相手に注意を促したり、相手に何かを知ってほしい、してほしいという気持ちを込めて使うこともあります。  
 なお、この「ナ」の前に小さなラ行の音(ラリルレロ/ローマ字ではr)が来た場合、レッスン41で習った「ノ」の場合と同じように「ン/ローマ字ではn」に変化することがあります。たとえば例文2の場合の「クコル ナ」が「クコン ナ」と発音されることがあります。

MEMO

---



---



---



---



---

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 このメロンは安いけどおいしいよ。  
 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )。  
 アタイサク ataysak 安い タパン tapan この  
 ナ na よ メロン MELON メロン  
 コルカイ korkay けど ケラアン keraan おいしい

2 私はアイヌ語が少し分かるよ。  
 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )。  
 ナ na よ ク ku= 私  
 アナク anak は アイヌイタク aynuitak アイヌ語  
 エラムアン eramuan 分かる クアニ kuani 私  
 ポンノ ponno 少し

MEMO

---



---



---



---



---



---




---



---



---



**ウポポ アイェノ!**  
(歌を歌いましょう)

帯広  
日高  
新十郎川  
新ひだか町  
三石  
浦河  
類似  
大沼

— ホイヤオ(鶴の舞) —

ホイヤオ ホイヤオ ホイヤオ ホイヤオ ヘッサオ サオ

この歌は、鶴の踊りの歌です。2つのグループに分かれた人々が鶴の羽のように手を動かしながら互い違いに移動します。ゆったりした動きの踊りです。  
 歌詞はおそらくすべて掛け声で意味はありません。ウポポには掛け声だけで歌詞の意味がとれないものがたくさんあります。  
 似たような歌・踊りが浦河・三石・静内・新冠など日高各地に伝えられています。

練習問題の解答 1. 地下鉄 2. トコトコエノ 3. アイヌイタク 4. アタヤク 5. アタヤク 6. アタヤク 7. アタヤク 8. アタヤク 9. アタヤク 10. アタヤク 11. アタヤク 12. アタヤク 13. アタヤク 14. アタヤク 15. アタヤク 16. アタヤク 17. アタヤク 18. アタヤク 19. アタヤク 20. アタヤク

**例文**

1 鉛筆 エコル ヤ?  
 ENPITU e=kor ya?  
 鉛筆 あなた・持つ か (あなたは鉛筆を持っていますか?)

2 ウクラン イメル アツ ヤ?  
 ukuran imeru at ya?  
 ゆうべ 稲妻 光った か (ゆうべ稲妻が光りましたか?)

**単語**

アイヌ語	日本語訳
アツ at	(光や煙、匂い、気体状のものが)出る、起こる、発生する。ほかに、ウラルアツ(霧が出る)、フラ アツ(匂いがする)、ヌベキ アツ(光が出る=光る)、スプヤ アツ(煙が出る)などというような使い方をします。
イメル imeru	稲妻、稲光。イ=それ(神)、メル=輝き、雷(の音)のことはカムイフムと言います。日本語では「雷が光る」などとも言い、雷鳴と稲光を区別しないことがありますが、アイヌ語ではこの二つを区別します。
ウクラン ukuran	ゆうべ。
エ e=	あなた。
鉛筆 ENPITU	鉛筆。日本語をそのまま使っています。
コル kor	～を持つ。
ヤ ya	～ですか、～しますか?

**言葉の解説**

今回習う「ヤ」という言葉は、文章の最後につけて相手に質問する時に使う言葉でよく使います。日本語の「～しますか」、「～ですか」の「か」と同じような言葉です。  
 ただし、日本語でも「ご飯食べた?」、「これ買います?」などと文章の最後を上げ調子にして質問することがありますが、アイヌ語でも同じように文章の終わりをあげることによって質問することができます。

例 ワッカ エク? あなたは水を飲む?  
 アイヌイタク エチエランペテク? あなたたちはアイヌ語が分からない?

**練習問題** 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 あなたのおばさんの家は大きいですか?  
 ( )( )( )( )( )?  
 コル kor 持つ ヤ ya ですか  
 ポロ poro 大きい ウナルペ unarpe おばさん  
 エ e= あなた チセヘ cisehe 家

2 あなたたちは毎日働いてるんですか?  
 ( )( )( )( )( )?  
 カネ kane しながら ケシト kesto 毎日  
 モンライケ monrayke 働く エチ eci= あなたたち  
 ヤ ya か オカイ okay いる  
 エチ eci= あなたたち

MEMO

---



---



---



---



---



---



---



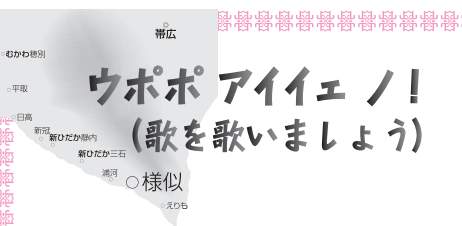
---



---



---



**ウポポ アイェノ!**  
 (歌を歌いましょう)

— ハンロロレ(輪踊りの歌) —  
 ハンロロレ ハンロロレ ハンロロレ

岡本ゆみさんの伝承していた歌です。歌詞は掛け声のようなもので意味は分かりません。踊りの歌は各地にさまざまなものが伝わっています。なぜかハンロとかハンレというような歌詞が入っているものが多いようです。  
 この歌は節回しが難しいかもしれませんが。実際に歌う時は言葉を伸ばして節を曲げるので、ハンロオオーロオーレーエのような感じになります。

練習問題の解答 レッスン42  
 1. タビメロン アタチカ コルメ アタチカ アタチカ アタチカ アタチカ アタチカ アタチカ  
 2. ケツニ アチク アチク アチク アチク アチク アチク アチク アチク アチク アチク  
 anak aynutak ponno ku=eramuan na

例文

1 アルバイト クキ ルスイ。  
 ARBEIT ku=ki rusuy.  
 アルバイト 私・する したい (私はアルバイトをしたい。)

2 ルルモツペ エン パイエアシ ルスイ。  
 Rurmotpe en paye=as rusuy.  
 留萌 に 行く・私たち したい (私たちは留萌に行きたい)

単語

アイヌ語		日本語訳
アシ	=as	私たち(聞き手を含まない)。
アルバイト	ARBEIT	アルバイト。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
エン	en	〜に。
ク	ku=	私。
キ	ki	〜をする。
パイエ	paye	行く(複数形)。
ルスイ	rusuy	〜したい。
ルルモツペ	Rurmotpe	留萌。語源は、ルル=海、モ=静けさ、オツ=ある、ペ=ところ、と解釈できますがよく分かりません。

言葉の解説

ここでは、「〜したい」という時の言い方を習います。文章の最後に「ルスイ」をつけるとことで「〜したい」という意味になり、よく使われる言葉です。

このルスイがなければ、例文1は「私はアルバイトをする」、例文2は「私たちは留萌に行く」という意味の文章になります。

なお、このルスイは合成語でもよく使われる言葉で、たとえば「イベルスイ=食事したい=お腹が減っている」、「モコンルスイ=モコル・ルスイ=眠りたい=眠たい」、「コンルスイ=コル・ルスイ=持つ・したい=手に入れたい/ほしい」というような使われ方をします。

MEMO

---



---



---



---



---

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 私は新しい時計を買いたい。( )( )( )( )。  
 ホク hok 買う アシリ asir 新しい  
 ク ku= 私 ルスイ rusuy ~したい  
 時計 TOKEI 時計

2 あなたたちは樺太に行きたいですか?  
 ( )( )( )( )( )( )?  
 エン en ~に ヤ ya ですか  
 パイエ paye 行く エチ eci= あなたたち  
 ルスイ rusuy ~したい カラプト Karapto 樺太  
 エチオカイ eciokay あなたたち

MEMO

---



---



---



---



---



---



---



---



---

**ウポポ アイエノ!** (歌を歌いましょう)  
 帯広 白高 新田 舞ひだか三石 渡河 八尾

— イユタ・ウポポ(杵つき歌) —  
 ヘッサオ ホイ ヘッサオ ホイ

イユタというのは、分解すると、イ・ユタ=それ(=穀物)・つく、となり、臼で杵を使って穀物などをつくことを言います。

昔は脱穀機などはありませんので、アワやヒエ、米などの穀物を脱穀する時、杵と臼を使っていました。そういった時、お互い声を掛け歌いながら作業をしました。杵つき歌はさまざまなものが各地に伝わっています。様似の場合は二人の人が交互に杵をつき、そのリズムに合わせた歌になっています。ほかの地方では、3人が順番に杵をつくので、3拍子(ワルツと同じです)になっているものもあります。

1. エル ウチル チセハ ホロ ヤ ekor unarpe cisehe poro ya  
 2. ケシ エチモツケ カネ エチオカイ ヤ kesto eci=monrayke kane eci=okay ya





例文

1 チヌカルクル ネイ タ アン?  
 cinukarkur ney ta an?  
 北斗七星 どこ に ある (北斗七星はどこにありますか?)

2 ニサッタ エノン エチパイエ?  
 nisatta enon eci=paye?  
 明日 どこに あなたたち・行く (明日あなたたちはどこに行きますか?)

単語

アイヌ語		日本語訳
アン	an	ある、いる(単数形)。
エチ	eci=	あなたたち。
エノン	enon	どこに。移動する行き先を尋ねる時に使います。静内より東の日高東部、十勝などで使う言い方です。ほかの地方では、フナクン・ヒナクン・ネイネ・ネウンなどと言います。
タ	ta	～に。
チヌカルクル	cinukarkur	北斗七星。チ=私たち、ヌカル=見る、クル=人(または神)。おそらく方角を知るためにいつもこの星座を見ていたのでこういう名前がついたのだと思われます。この星座の呼び方はほかにもいろいろあります。
ニサッタ	nisatta	明日。
ネイ	ney	どこ。
パイエ	paye	行く(複数形)。

言葉の解説

ここでは「どこ」を指す言葉を習います。人やものがどこにある(いる)のか聞く時は「ネイ タ」という言い方を使います。  
 また例文2のように行き先を聞く時は「ネイ タ」を使わず、「エノン」という別の言葉を使います。  
 これに似た言葉に「オノン」という言葉がありますが、これは「どこから」という意味です。「オノン エチアルキ?」というと、「あなたたちはどこから来たんですか?」という意味になります。

MEMO

---



---



---



---



---

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 あなたのお父さんはどこにいますか?  
 ( )( )( )( )?  
 アン an いる ネイ ney どこ  
 コル kor 持つ エ e= あなた  
 アチャ aca お父さん タ ta に

2 明日お前たちはどこに行きたい? ( )( )( )?  
 ルスイ rusuy したい エチ eci= お前たち  
 ニサッタ nisatta 明日 パイエ paye 行く  
 エノン enon どこに

MEMO

---



---




---



---



---



**ウポポ アイェノ!**  
(歌を歌いましょう)

— 親子鶴の踊り —

フン トリ フン チカブ  
 掛け声? 鳥 掛け声 鳥  
 ピヤブ ナ ハウ ウウウ(子鶴が羽ばたいたら)  
 ? ? 掛け声? 掛け声?

レッスン43でも鶴の舞の歌を紹介しましたが、こちらは親子の鶴の踊りです。  
 親鶴が卵を温め、卵がかえりひなが生まれ、ひな鳥に親鳥が飛び方を教え、次第に子鶴が飛び方を覚え、最後には親鶴と一緒に空を優雅に飛ぶようになる様子を踊りにしたものです。着物のすそを羽にして羽ばたく動きはまさに鶴を思わせます。  
 この歌も意味がよく分からない部分が多いです。アイヌ語では鳥のことを普通チカブと言いますが、歌や物語の中ではトリという言葉もよく使われます。おそらく日本語から入ったものと思われるが、よく使われる言葉なので、比較的古い時代に入ったのではないかと思います。  
 レッスン19(テキストVol.2)のコラムに掲載した写真は親子鶴の踊りです。  
 これに似た歌・踊りは各地に伝承されています。鶴の舞はアイヌの踊りの中でもっとも広い範囲で伝承されている踊りかもしれませんが、さまざまなものがあり、似ているものもあればかなり違うものもあります。機会があれば各地の鶴の舞を見て比べてみるのもおもしろいと思います。



例文

1 ネブ エエ ルスイ?  
 nep e=e rusuy?  
 何 あなた・食べる したい? (あなたは何を食いたいですか?)

2 ネブ カイ ケラアン クワシ クエ ルスイ。  
 nep kay keraan kuwas ku=e rusuy.  
 何 か おいしい お菓子 私・食べる したい  
 (私は何かおいしいお菓子を食いたい。)

単語

アイヌ語	日本語訳
エ e	～を食べる。
エ e=	あなた。
カイ kay	か。単独では使われません。たとえば、ネブ カイ(何か)、エノン カイ(どこかに)など、ほかの言葉と組み合わせて使われます。
ク ku=	私。
クワシ kuwas	お菓子。日本語の「菓子」の古い発音「くわし」が古い時代にアイヌ語に取り入れられたようです。地方によってはトベンベ・ルルコルベ(いずれも「甘いもの」の意味)と言ったりします。
ケラアン keraan	おいしい。
ネブ nep	何。ヘマンタという言葉を使う地方もあります。
ルスイ rusuy	～したい。

言葉の解説

今回は「何」に相当する言葉「ネブ」を習います。非常によく使う言葉です。ネブはほかの言葉と組み合わせてさまざまな使い方ができます。たとえば例文2のように「ネブ カイ」と言うと「何か」、「ネブ クス」というと「なぜ」、「ネブ タ アン ペ」というと「何やら」などなどさまざまに使われます。また、「ネブ」の小さい「ブ」の発音に気をつけましょう。「ネブ」ではありません。気をゆるめるとつい小さい文字の発音がおろそかになってしまうのでしっかり練習してください。

MEMO

---



---



---



---



---

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 明日あなたは何を着て行きますか?  
 ( ) ( ) ( ) ( ) ( )?  
 ミ mi 着る ネブ nep 何  
 エ e= あなた ワ wa ~して  
 ニサッタ nisatta 明日 オマン oman 行く  
 エ e= あなた

2 あなたたちは何かいい考えを持っていますか?  
 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )?  
 サンニヨ sanniyō 考え ヤ ya ~ですか  
 カイ kay か ピリカ pirka いい  
 エチ eci= あなたたち ネブ nep 何  
 コル kor 持つ

MEMO

---



---



---



---



---


**ウポポ アイェノ!**  
 (歌を歌いましょう)

— エルムンコイキ(ネズミ捕り) —  
 スンカイナ スンカイナ ハ キナ クス ハラル ソ ソ

この歌詞の意味はよく分かりません。

これは、遊びをかねた踊りの歌です。お菓子や果物などを用意してお盆に乗せて床に置きます。その近くに二人の人が縄を持って座り、その縄を輪にしてわなにします。そこに親子のネズミ役の人がピョンピョン跳ねながらえさに近づき、エサをくださいと見張り役の人におねだりしそれを断られ、そこで隙を見計らいエサを盗みます。見張り役の人はその縄でネズミを捕まえようとし、もしネズミがつかまったならば縄でネズミをせっかんします。

同じような踊りが日高各地で伝えられているほか、道東の厚岸で伝承されていたアイヌ神楽では、キツネが油揚げを盗みに来る内容の踊りが伝えられており関連性がありそうです。



1. エルムンコイキ(ネズミ捕り)の歌詞の解説  
 2. ニサッタ エチ/エチ/ニサッタ エノン eci=paye rusuy

例文

1 アンミプ ポロンノ エミ ヤツカイ エメウン ナンコル。  
 anmip poronno e=mi yakkay e=meun nankor.  
 服 たくさん あなた・着る ～しても あなた・寒い だろう  
 (あなたは服をたくさん着ても寒いだろう。)

2 ニサッタ ウパシ アシ ヤツカイ モンライケアシ クス ネ。  
 nisatta upas as yakkay monrayke=as kusu ne.  
 明日 雪が 降る ～しても 働く・私たち つもり だ  
 (明日雪が降っても私たちは働くつもりだ。)

単語

アイヌ語		日本語訳
アシ <sup>1</sup>	as	降る。
アシ <sup>2</sup>	=as	(聞き手を含まない) 私たち。
アンミプ	anmip	服、着物。衣服全般を指す言葉です。アン=私たち、ミ=着る、プ=もの。
ウパシ	upas	雪。
エ	e=	あなた。
クス	kusu	～から。この場合、クス ネで「～するつもりだ、予定である」という意味になります。
ナンコル	nankor	～だろう。
ニサッタ	nisatta	明日。
ネ	ne	～だ、である。
ポロンノ	poronno	たくさん。
ミ	mi	～を着る。
メウン	meun	寒い。気候が寒い時はメアンという言葉を使いますが、「私は寒い」「あなたは寒い」のように人間について言う時はこちらを使います。メライケという言い方をする地方が多いようです。
モンライケ	monrayke	働く。
ヤツカイ	yakkay	～しても。地方によってはヤッカという発音になります。

言葉の解説

ここで習うのは、レッスン39(テキストVol.3)で習った「コルカイ」に少し似ていますが、こちらは「～しても」という、もし仮にそうしても、そうなくても、という仮定のニュアンスで使われる言葉です。  
 例文1の場合、とても寒い日に出かける人や、とても寒いところに旅行に行く人に「(仮に)たくさん服をたくさん着たとしても寒いだろう」と言う時に使います。  
 例文2の場合は、雪が仮に降ったとしても働くつもりである、という意味なので、雪が降っても降らなくても働くつもりであるということになります。

練習問題 言葉を並べ替えて文章を作ってください。

1 私は仕事を探してもない。  
 ( )( )( )( )。  
 モンライケ monrayke 仕事 イサム isam ない  
 ク ku= 私 ヤツカイ yakkay しても  
 エシタン estan 探す

2 私が怒っても私の息子は逃げないだろう。  
 ( )( )( )( )( )( )。  
 ク ku= 私 キラ kira 逃げる  
 ポホ poho 息子 ナンコル nankor だろう  
 ヤツカイ yakkay しても イルシカ iruska 怒る  
 ヘンネ henne しない ク ku= 私

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ウポポ アイエノ!  
 (歌を歌いましょう)

ハル チャ ハル チャ ハル チャ  
 食料 切れ 食料 切れ 食料 切れ

木村チセさんの伝承していた歌です。熊をとった時、みんなでこの歌を歌い輪になって踊ったそうです。恵みに感謝する歌なのではないかと思われます。  
 ハルというのは、「恵み」「食料」のことで、熊の肉などをカムイハル(神の恵み・肉)などと言います。チャというのは「切る」という意味なので、「神様の恵み(獲物の肉)を切れ」という意味でしょうか。はっきりしたことは分かりません。  
 熊送りについてはレッスン23(テキストVol.2)のコラムをご覧ください。

1. ニサッタ ネフ エミ 7 エオマシ nisatta nep e=mi wa e=oman  
 2. ネフ カイ エリカ サシニエ イチコル ヤ nep kay pirka sanniyō eci=kōr ya

本文

(節なしの語り) ネコン イキ ワ nekon iki wa シクブ アワン ペ sikup awan pe アンネ イネ an=ne ine チオルクシテコ ciorkusteko アトウイソ カ タ atuyso ka ta モムモムアン カネ mommom=an kane オカアン マ oka=an ma アコヤイヌバ a=koyaynupa	どのようにして 生まれた者 で私はあって こんなところに 海原の上に 私は流れ流れて いて そこに私は気が ついた	アヨロロペ ayororope アヨロロペ ayororope ネコニキ ワ nekon iki wa シクブ アワン ペ sikup awan pe イパンネ キ テク ipan=ne ki tek タン ヌプル アトウイ tan nupur atuy アトウイソ カ タ atuyso ka ta モムモムアン カネ mommom=an kane オカヤン キ ワ okay=an ki wa アコヤイヌバ a=koyaynupa	どのようにして 生まれた者 なのか私は この偉大なる海 海原の上を 流れ流れ しながら 私はそこに気が ついた
---	---	--	---

単語

アイヌ語	日本語訳
ア a=	私。=アン。
アトウイ atuy	海。
アトウイソ atuyso	海原。アトウイ=海、ソ=広い空間。
アヨロロペ ayororope	意味なし。叙事詩がはじまるときの出だしの枕言葉。
アワン awan	～した。
アン an=	私。
アン =an	私。
イキ iki	する。
イネ ine	～して。ワに近い意味です。
イパン ipan=	私。物語におけるアンの特殊な形。
オカ oka	いる。=オカイ。
カ ka	上。
カネ kane	～しながら。
キ ki	～する。
コヤイヌバ koyaynupa	～に気がつく。コ=そこに、ヤイヌ=意識、パ=見つける。
シクブ sikup	育つ。
タ ta	～に。
タン tan	この。
チオルクシテコ ciorkusteko	こんなところで。あまり使われる言葉ではないようです。
テク tek	～して。
ヌプル nupur	力がある、偉大な。「霊力が強い」というのがもとの意味のようです。また、水などの色が「濃い」という意味もあります。登別の語源、ヌプルベツのヌプルもこの意味です。
ネ ne	～だ、である。

アイヌ語	日本語訳
ネコニキ nekon iki	ネコン イキの発音が続いた形。
ネコン nekon	どのように。
ペ pe	もの。
マ ma	ワ(～して)の発音が変わった形。
モムモム mommom	流れ流れる。モムだけで「流れる」という意味ですが、モムモムと言葉を繰り返すことによって「ずっと流れ続けている」という意味になります。
ワ wa	～して。

解説

今回は、様似に伝わる英雄叙事詩「ヤイラプ」を勉強します。これは岡本ゆみさんによって語られたヤイラプの冒頭部分です。詳しくは巻末の「資料」をご覧ください。ヤイラプについては、概要をレッスン26(テキストVol.2)のコラムで紹介してありますのでご覧ください。

ヤイラプを歌うのは非常に難しいので、まずは節なしで語る練習をしてみましょう。また、言葉使いも難しいので、詳しい解説は省きます。ただ、これまで習った言葉もちらほら出てくることに気づいた方もいらっしゃるでしょう。

物語の最初は語りの言葉ではじまります。アヨロロペというところから節をつけた語りのはじまりますが、アヨロロペには特に意味がなくヤイラプを語るはじめに入る枕言葉のような文句です。エヨロロペと言うこともあります。

また、ヤイラプを節をつけて語る時は、言葉を伸ばしたり、本来はない音を入れて歌うことがよくあります。最初の3行の歌い方をあえて文字にして表現すると以下ようになります。赤文字のところが本来の言葉です。

ネコニ イイー キー ワー アア アアー  
シクブ ア アアー ワン ベー エエ エエー  
イーパンネ エエー キー テーク

MEMO

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

ウポポ アイェノ!  
(歌を歌いましょう)

— チャピヤ(ツバメの踊り) —

ピヤ ピヤ ピヤ (出だし)  
ピヤ ピヤ チャピヤ (繰り返し)

この踊りも各地で似たような踊りが伝承されています。ツバメが空を舞い、交差している様子を踊りにした軽快な踊りです。

本文

男1: トパットウミ エク ナ!  
topattumi ek na! (侵略軍が来たぞ!)

男2: ハヨク ワ トウミ エトコイキ ヤン!  
hayok wa tumi etokoyki yan! (武装して戦いの準備をなさい!)

男4: アイシトマ ナ! メノコ ウタル ネワ ヘカツタル アナク キム タ キラ ワ  
ay=sitoma na! menoko utar newa hekattar anak kim ta kira wa  
(恐ろしいことだ! 女と子供たちは山に逃げて)

シヌイナク ナンコル! イテツケ ソイエンパ!  
sinuynak nankor! itekke soyenpa!  
(隠れなさい! 決して外に出てはだめだぞ!)

女1: トパットウミ エク ヤカイエ!  
topattumi ek yakaye! (侵略軍が来たそうだよ!)

女2: キラアン クス ネ!  
kira=an kusu ne! (逃げましょう!)

女3: ヘタク キラアン ノ!  
hetak kira=an no! (早く逃げよう!)

女4: オンネ ウタル ネワ ヘカツタル アントウラ ワ キラアン ノ!  
onne utar newa hekattar an=tura wa kira=an no!  
(年寄りと子供たちを連れて逃げよう!)

単語

アイヌ語	日本語訳
アイ	ay=
アナク	anak
アン	an=
アン	=an
イテツケ	itekke
ウタル	utar
エク	ek
エトコイキ	etokoyki
オンネ	onne
キム	kim
キラ	kira
クス	kusu
シトマ	sitoma
シヌイナク	sinuynak
ソイエンパ	soyenpa
タ	ta

日本語訳:  
 アン(私たち)の発音が変わった形です。  
 ~は。  
 私たち。  
 私たち。  
 ~するな。  
 人々。  
 来る(単数形)。  
 ~の準備をする。  
 年老いた。  
 山。「あの山」「この山」「大きい山」など、具体的な山はヌプリと言いますが、「山に行って山菜をとる」「山にいる」というような場合の、方角・場所としての「山」をキムと言います。  
 逃げる。  
 ~から。  
 ~を恐れる。  
 隠れる。  
 外に出る(複数形)。単数形はソイエネです。  
 ~に。

アイヌ語	日本語訳
トゥミ	tumi
トゥラ	tura
トパットウミ	topattumi
ナ	na
ナンコル	nankor
ネ	ne
ネワ	newa
ノ	no
ハヨク	hayok
ヘカツタル	hekattar
ヘタク	hetak
メノコ	menoko
ヤカイエ	yakaye
ヤン	yan
ワ	wa

日本語訳:  
 戦い、いくさ。  
 ~を連れる。  
 侵略軍、盗賊。詳しくは解説をご覧ください。  
 ~よ。  
 ~だろう。~するように。ここでは人に対する命令・指示の意味で使われています。  
 ~だ、である。  
 ~と。「山と川」「男と女」というような場合の「と」です。「兄と遊ぶ」というような時の「と」や、「…と思う」というような時に「と」は別の言葉を使うので、ネワは使いません。  
 ~しよう。  
 武装する。  
 子供たち。  
 さあ、早く。  
 女、女性。  
 ~そうだ。もとはヤク アイエ(ということが 言われている)ですが、ここでは言葉がつながっています。地方によって、アカイエ・ハカイエなどとも言います。  
 ~しなさい。  
 ~して。

解説

これは、2006年11月11日様似で開催された第19回アイヌ民族文化祭で行われた、様似アイヌ語教室によるアイヌ語劇「ホタフンベ(砂鯨)の伝説」の脚本の一部です(一部修正)。

原話は『様似町史』に掲載されている岡本総吉さんの語った伝説で、それを劇用に脚色したものです。レッスン6(テキストVol.1)のコラムで概要を紹介しています。今回取り上げたセリフは、侵略軍が様似にやってくるのが分かり、村中が騒然となり、村人たちが騒いでいる場面です。

トパットウミというのは、昔のアイヌの伝説に出てくるもので、悪い心を持った人々が集団でほかの村を攻め込んで宝物を奪ったりします。「群盗」、「盗賊」、「略奪軍」などとも訳されます。イシカトゥミ(イシカ=盗む)ということもあります。また人々が寝静まった夜に攻め込むことが多いので「夜盗」と訳されることもあります。トパというのは「群れ・集団」という意味で、トゥミというのは「戦争・いくさ」という意味です。

これは劇用のセリフなので、言葉は少し難しいかもしれませんが、これまで習った言葉もたくさん出てきます。役になりきったつもりで感情を込めてセリフを発してみましょう。その時、小さな文字などの発音にも気をつけましょう。

MEMO

---



---



---



---

ウポポ アイエ ノ!  
(歌を歌いましょう)

—ハンレ ハンレ—  
ハンレ ハンレ ハンレロレ ハンレ

相川コトさんの伝承していた歌です。これも踊り歌のようです。非常に似た歌が十勝に伝承されています。

## 本文

A: ウパシ ル ワ シリポフケ ナ。  
upas ru wa sirpopke na. (雪解けて暖かいですね。)

B: パイカル アン ナ! クヌチャクテク。  
paykar an na. ku=nucaktek. (春ですね!うれしいです。)

A: ニサッタ 日曜日 ネ クス エノン カイ パイエアン ノ!  
nisatta NITIYOUBI ne kusu enon kay paye=an no!  
(明日、日曜日だからどこかに行きましょう。)

B: ピリカ! 車 アンオ ワ パイエアン ノ!  
pirka! KURUMA an=o wa paye=an no!  
(いいですね!車に乗って行きましょう!)

A: エノン エオマン ルスイ?  
enon e=oman rusuy? (どこに行きたいですか?)

B: オタルナイ エン クオマン ルスイ。  
Otarunay en ku=oman rusuy. (小樽に行きたいです。)

A: ピリカ。クアニ ウサ クオマン ルスイ。  
pirka. kuani usa ku=oman rusuy. (いいですね。私も行きたいです。)

B: ヤクン、ウトウラノ パイエアン ノ。  
yakun, uturano paye=an no. (じゃあ、一緒に行きましょう。)

シンケヘ  
sinkehe (翌日)

A: オタルナイ タ シレパアン ルウエ ネ。  
Otarunay ta sirepa=an ruwe ne. (小樽に着きましたよ。)

B: インネ ウタル オカイ!  
inne utar okay! (たくさんの方がいますね!)

A: クアニ アナク ピントロ アリ アンカル ペ クホク ルスイ。  
kuani anak pintoro ari an=kar pe ku=hok rusuy.  
(私はガラス製品が買いたいです。)

B: ヤクン、トアンタ パイエアン ノ。  
yakun, toanta paye=an no. (じゃあ、あそこに行きましょう。)

みやげ屋 オシケ タ  
MIYAGEYA oske ta (みやげ屋の中で)

A: インキアンペ エコンルスイ?  
inkianpe e=konrusuy? (どれがほしいですか?)

B: オピッタ ソンノ アタイコル ナ。  
opitta sonno ataykor na. (全部とても高いですね。)

A: オヤク タ パイエアン クス ネ。  
oyak ta paye=an kusu ne. (ほかのところに行きましょう。)

B: パイエアン ノ。  
paye=an no. (行きましょう。)

オヤ みやげ屋 オシケ タ  
oya MIYAGEYA oske ta (ほかのみやげ屋の中で)

A: タンペ ソンノ ピリカ ナ。クホク クス ネ。  
tanpe sonno pirka na. ku=hok kusu ne.  
(これとてもきれいですね。私、買います。)

B: クアニ アナク タパン オルゴール クホク ナ。フミヒ ソンノ ピリカ。  
kuani anak tapan ORGEL ku=hok na. humihi sonno pirka.  
(私はこのオルゴールを買います。音がとてもきれいです。)

みやげ屋 オル ワ ソイエンパ  
MIYAGEYA or wa soyenpa (みやげ屋から出る)

A: トケシ アン ナ。イペアン ノ。クイペルスイ。  
tokes an na. ipe=an no. ku=iperusuy.  
(昼ですよ。ご飯を食べましょう。お腹がすきました。)

B: ネコン アン ペ エエ ルスイ?  
nekon an pe e=e rusuy? (どんなものを食べたいですか?)

A: クアニ アナク ラーメン クエ ルスイ。  
kuani anak LAMIAN ku=e rusuy. (私はラーメンが食べたいです。)

B: オタルナイ ネ クス 寿司 クエ ルスイ。  
Otarunay ne kusu SUSI ku=e rusuy. (小樽だから私は寿司が食べたいです。)

A: クアニ アナクネ ラーメン クエ ルスイ コルカイ、  
kuani anakne LAMIAN ku=e rusuy korkay,  
(私はラーメンが食べたいですが、)

寿司 エエ ルスイ ヤクン 寿司 ネ ヤツカイ ピリカ。  
SUSI e=e rusuy yakun SUSI ne yakkay pirka.  
(あなたが寿司を食べたいなら寿司でもいいですよ。)

B: イヤイライケレ。ケラアン マ アタイサク ウシケ アンエスタン ノ。  
iyayraykere. keraan ma ataysak uske an=estan no.  
(ありがとう。おいしくて安いところを探しましょう。)

## 単語

アイヌ語	日本語訳
アタイコル ataykor	高い。
アタイサク ataysak	安い。
アナク anak	～は。
アナクネ anakne	～は。
アリ ari	～で。「米で作る」「棒で叩く」など、材料や手段を示します。地方によってはアニと言います。
アン <sup>1</sup> an	ある。アイヌ語では「春になる」「春が来る」という時「春がある」という言い方をよくします。
アン <sup>2</sup> an=	私たち。～される。
アン <sup>3</sup> =an	私たち。
イペ ipe	食事する。
イペルスイ iperusuy	空腹である。お腹がすく。
イヤイライケレ iyayraykere	ありがとう。感謝の意を表す丁寧な言葉です。
インキアンペ inkianpe	どれ。
インネ inne	人数が多い。
ウシケ uske	ところ。
ウサ usa	～も。

単語

アイヌ語	日本語訳
ウタル	utar 人々。
ウトウラノ	uturano 一緒に。
ウパシ	upas 雪。
エ1	e ~を食べる。
エ2	e= あなた。
エシタン	estan ~を探す。フナラという言葉を使う地方も多いようです。
エノン	enon どこに。
エン	en ~に。
オ	o ~に乗る。
オシケ	oske 中。
オル	or ところ。
オカイ	okay いる(複数形)。
オタルナイ	Otarunay 小樽。オタ=砂、ル=道、ナイ=沢だと言われています。
オピッタ	opitta すべて、全員。
オマン	oman 行く。
オヤ	oya ほかの。
オヤク	oyak ほかのところ。
オルゴール	ORGEL オルゴール。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
カル	kar 作る。
カイ	kay ~か。
クアニ	kuani 私。
ク	ku= 私。
クス	kusu ~ので、だから。
車	KURUMA 車。日本語をそのまま使っています。
ケラアン	keraan おいしい。
コルカイ	korkay ~けど、が。
コンルスイ	konrusuy ~がほしい。
シリポプケ	sirpopke 暖かい。
シレパ	sirepa 着く、到着する。
シンケヘ	sinkehe 翌日(所属形)。基本形はシンケです。多くの地方ではシムケヘという発音になります。
寿司	SUSI 寿司。日本語をそのまま使っています。
ソイエンパ	soyenpa 外に出る(複数形)。
ソンノ	sonno 本当に、とても。
タ	ta ~に。
タバン	tapan この。
タンベ	tanpe これ。
トアンタ	toanta あそこに。
トケン	tokes 昼。ト=日、ケン=端。正午あたりの時間帯を指します。昼と夜など、夜と対比して言うところの「昼(日中)」についてはシリベケルという言葉を使います。
ナ	na ~よ。
ニサッタ	nisatta 明日。
日曜日	NITIYOUBI 日曜日。日本語をそのまま使っています。アイヌ語では特に曜日に関する表現はありません。
ヌチャクテク	nucaktek うれしい。その他、地方によってヤイコブンテク・ヌベツネ・ヤイレンカなどの言い方がありません。
ネ	ne ~だ、である。
ネコン	nekon どのように。
ノ	no ~しよう。
パイエ	paye 行く(複数形)。
バイカル	paykar 春。
ピリカ	pirka よい、きれい。
ピントロ	pintoro ガラス。かつて日本語でガラスのことをポルトガル起源の外来語「ビードロ」と呼んでいたものがアイヌ語に入ったようです。
フミヒ	humihi 音(所属形)。基本形はフムです。
ペ	pe もの。
ホク	hok ~をかう。
マ	ma ワ(~して)の発音が変わった形。

アイヌ語	日本語訳
みやげ屋	MIYAGEYA みやげ屋。日本語をそのまま使っています。
ヤクン	yakun ~ならば。
ヤッカイ	yakkay ~しても。
ラーメン	LAMIAN ラーメン。日本語に入った外来語をそのまま使っています。
ル	ru とける。
ルウェ	ruwe ~こと。
ルスイ	rusuy ~したい。
ワ <sup>1</sup>	wa ~から。
ワ <sup>2</sup>	wa ~して。

言葉の解説

さて、今日で1年間のアイヌ語の勉強は終わりとなります。今回は少し難しくなりますが、アイヌ語で実際に会話をするとどう感じるのか小樽に遊びに行くという設定で会話文を作ってみました。今まで習ったことのない表現もいくつか含まれますが、大部分は今まで習ったことの応用です。

また意味をとりやすくするために逐語訳ではなくできるだけ自然な日本語を意識してあります。1つ1つの言葉の意味は単語の欄で確認してください。

以下、いくつか注意すべき点について説明します。  
「ピントロ アリ アンカル ペ」を直訳すると「ガラス で 作られた もの」となります。「アンカル」の部分は「私たちが作った」ではなく、ここでは「人が作った」、「人によって作られた」という受身の意味です。アンにはこういう使い方もあります。

「ルウェ ネ」のルウェは「こと」というような意味ですが、ルウェ ネで「~ということです」、「~しますよ」、「~するのです」、「~なのです」というように、事実を強調する時に使われます。

練習

- 質問に対して自由に答えてみましょう。  
問:エノン エオマン ルスイ? あなたはどこに行きたいですか?  
答:( )エン クオマン ルスイ。
- 本文の最後の、みやげ屋を出たあと昼食について会話の「ラーメン」「オタルナイ」「寿司」のところを自由に置き換えて会話してみましょう。

**ウポポ アイェノ!**  
(歌を歌いましょう)

— ポロリムセ(輪踊り) —

ハンロ ウッサ ハンロ ホイ  
ハンロ ウッサ ハンロ ホイ

これまた歌詞の意味はよく分かりません。  
レッスン41の例文にも出てきますが、お祭りや行事の時の最後に締めくくりにやる踊りです。様似以外でも日高各地に似たような歌・踊りが伝わっています。  
ポロ=踊り、リムセ=踊りです。こういう最後の輪踊りを地方によってはホリッパとも言います。木村チセさんによると、男はヘイ、ヘイフンというような掛け声を入れるそうです。  
最初はみんな輪になって回りながら踊りますが、興が乗ってくると輪の中に人が出て跳ねて踊ったりします。もしどこかのお祭りやイベントに参加する機会がありましたら、ぜひとも踊りの輪に加わってみてください。歌い手も踊り手も、その場にいる人みんなの心が一つになるような感覚を感じることができると思います。

## 本文

(節なしの語り)

ネコン イキ ワ どのようにして  
nekon iki wa  
シクブ アワン ペ 生まれた者  
sikup awan pe  
アンネ イネ で私はあって  
an=ne ine  
チオルクシテコ こんなところに  
ciorkusteko  
アトウイソ カ タ 海原の上に  
atuyso ka ta  
モムモムアン カネ 私は流れ流れて  
mommom=an kane  
オカアン マ いて  
oka=an ma  
アコヤイヌパ そこに私は気が  
a=koyaynupa ついた

(ここより節つき)

アヨロロペ  
ayororope  
アヨロロペ  
ayororope  
アヨロロペ  
ayororope  
ネコニキ ワ どのようにして  
nekon iki wa  
シクブ アワン ペ 生まれた者  
sikup awan pe  
イパンネ キ テク なのか私は  
ipan=ne ki tek  
タン ヌブ… この偉…  
tan nupu... ※途中で言いよんだ箇所です  
タン ヌプル アトウイ この偉大なる海  
tan nupur atuy  
アトウイソ カ タ 海原の上を  
atuyso ka ta

モムモムアン カネ 流れ流れ  
mommom=an kane  
オカヤン キ ワ しながら  
okay=an ki wa  
アコヤイヌパ 私はそこに気が  
a=koyaynupa ついた  
ヤイヌヤンフミ 私が考えたこと  
yaynu=an humi  
エネ アン クニ はこうだった  
ene an kuni  
ネコニキ ワ どのようにして  
nekon iki wa  
シクブ アワン ペ 生まれた者  
sikup awan pe  
イパンネ キ テク なのか私は  
ipan=ne ki tek  
エ クンネ エネ 夜も  
[e] kunne ene  
シリペケル エネ 昼も  
sirpeker ene  
アトウイソ カ タ 海の上を  
atuyso ka ta  
タパンペ コラチ このように  
tapanpe koraci  
モムモムアン カネ 流れ流れ  
mommom=an kane  
オカヤン ル タ アナ いるのだろうか  
okay=an ru ta an ya  
ヤイヌヤン キ コ 私は考えていると  
yaynu=an ki ko  
オ チシ トウ ヌベ 二つの泣く涙  
o cis tu nupe  
オ レ チシ ヌベ 三つの泣く涙を  
o re cis nupe  
アイヤイコランケ 私は流し  
ay=yaykoranke

ウ ケシト アン コ 毎日  
[u] kesto an ko  
アトウイソ カ タ 海原の上を  
atuyso ka ta  
モムモムアン カネ 私は流れ流れ  
mommom=an kane  
オカヤン キ ナ しているのだ  
okay=an ki na  
シネアニタ ある日  
sineanita  
ヤイヌヤン フミ 私の考えたことは  
yaynu=an humi  
エネ アン クニ こうだった  
ene an kuni  
ネコニキ ワ どのように  
nekon iki wa  
シクブ アワン ペ 育ったもの  
sikup awan pe  
イパンネ キ テク で私はあって  
ipan=ne ki tek  
タパンペ コラチ このように  
tapanpe koraci

アトウイソ カ タ 海原の上に  
atuyso ka ta  
イ クンネ エネ 夜でも  
[i] kunne ene  
シクブ… 育つ…  
sikup... ※途中で言いよんだ箇所です  
シクブアン カネ 私は育ち  
sikup=an kane  
アンコ… 私は…  
an=ko... ※途中で言いよんだ箇所です  
アントウマムカシ 私の体の表面を  
an=tumakasi  
アコシルワンテ よくよく観察して  
a=kosiruwante  
インカラン キ コ 見てみると  
inkar=an ki ko  
ピサシトウツカ ワ 貝が生えて  
pisastukka wa  
オカヤン キ ナ 私はいたのである  
okay=an ki na  
(続く)



岡本 ゆみさん(1896~1990)

## — 話のつづき —

このあと、主人公のオタストウンクルは、さらに海を漂ったあと浜に寄りあがり、シラルボンチャチャ(磯の小さなじい)に出会い「土臭いガキ、青臭いガキ、どうして俺の家の前に寄りあがっているのか。どこかに行っちゃえ。」と罵られます。そのあとさらに流れていくと、一人の若い女に出会い、手を差し伸べられて陸にあがります。その女は実の姉で、シラルボンチャチャが二人の両親を殺した仇であるということを教えられます。オタストウンクルの両親は本州に交易に行った時、毒を飲まされ、父親は死んでしまい、かろうじて生き延びた母親も船で戻ろうとしたのですが時化にあい、その船の中で子供を生み、天の神、海の神に子供を守ってくれるようお願いして生まれた子供を海に流したのです。その子供がオタストウンクルで、オタストウンクルは物心つかないうちから神様に見守られながら海を漂って成長したのです。自分の生い立ちを知ったオタストウンクルはシラルボンチャチャをやっつけ、さらに山の上にあるその仲間たちの館に、自らを蛇に変化させ忍び込み、敵たちをやっつけます。オタストウンクルはその後、家を再興し、姉ともどもそれぞれ所帯を持ち幸せに暮らしたとのこと

このヤイラプは、岡本ゆみさんの語ったものを1984(昭和59)年、佐藤知己さん(北海道大学助教授)が録音したテープの冒頭部分です。このヤイラプの全文は『静内地方の伝承Ⅱ』(静内町教育委員会、1992年)に掲載されています。

単語表

各レッスンの例文に掲載した単語です。Lの後の数字は掲載したレッスン番号です。

ア	a=	人称接辞	(物語での)私。アンの発音の変わった形。 L46、L50
アイ	ay=	人称接辞	アン(私たち)の発音が変わった形。 L51
アシ <sup>1</sup>	as	自動詞	降る。 L49
アシ <sup>2</sup>	=as	人称接辞	私たち(聞き手を含まない)。 L44、L45、L49
アタイコル	ataykor	自動詞	高い。 L52
アタイサク	ataysak	自動詞	安い。 L52
アツ	at	自動詞	出る、起こる、発生する。 L43
アトウイ	atuy	名詞	海。 L50
アトウイソ	atuyso	名詞	海原。 L50
アナク	anak	副助詞	～は。 L51、L52
アナクネ	anakne	副助詞	～は。 L52
アヨロロペ	ayororope	間投詞	ヤイラプがはじまるときの出だしの枕言葉。 L50
アリ	ari	後置副詞	～で。 L52
アワ	awa	接続助詞	～したところ。 L46
アワン	awan	助動詞	～した。 L50
アン <sup>1</sup>	an	自動詞	ある、いる(単数形)。 L47、L52
アン <sup>2</sup>	an=	人称接辞	私たち。(物語での)私。～される。 L41、L46、L50、L51、L52
アン <sup>3</sup>	=an	人称接辞	私たち。(物語での)私。 L46、L50、L51、L52
アンミブ	anmip	名詞	服、着物。 L49
イキ	iki	自動詞	する。 L50
イシカル	lskar	固有名詞	石狩。 L46
イテツケ	itekke	副詞	～するな。 L51
イネ	ine	接続助詞	～して。 L50
イパン	ipan=	人称接辞	私。物語におけるアンの特殊な形。 L50
イベ	ipe	自動詞	食事する。 L52
イベルスイ	iperusuy	自動詞	空腹である、お腹がすく。 L52
イメル	imeru	名詞	稲妻、稲光。 L43
イヤイライケレ	iyayraykere	間投詞	ありがとう。 L52
インキアンベ	inkianpe	疑問名詞	どれ。 L52
インネ	inne	自動詞	人数が多い。 L52
ウシケ	uske	形式名詞	ところ。 L52
ウクラン	ukuran	副詞	ゆうべ。 L43
ウサ	usa	副助詞	～も。 L52
ウタル	utar	名詞	人々。～たち。 L46、L51、L52
ウトウラノ	uturano	副詞	一緒に。 L52
ウパシ	upas	名詞	雪。 L49、L52
エ <sup>1</sup>	e	他動詞	～を食べる。 L41、L48、L52
エ <sup>2</sup>	e=	人称接辞	あなた。 L43、L48、L49、L52
エク	ek	自動詞	来る(単数形)。 L51
エシタン	estan	他動詞	～を探す。 L52
エチ	eci=	人称接辞	あなたたち。 L47
エトコ	etoko	位置名詞	山手、かみて(エトクの所属形)。 L46
エトコイキ	etokoyki	他動詞	～の準備をする。 L51

エノン	enon	疑問副詞	どこに。 L47、L52
エモマシヌ	emomasnu	他動詞	～を忙しく集める。 L46
エレ	ere	副他動詞	～に～を食べさせる。 L46
エン	en	格助詞	～に。 L44、L52
オ	o	他動詞	～に乗る。 L52
オシケ	oske	位置名詞	中。 L52
オル	or	位置名詞	ところ。 L52
オカ	oka	自動詞	いる。=オカイ。 L50
オカイ	okay	自動詞	いる(複数形)。 L52
オカヤン	okay=an	自動詞+人称接辞	オカイ・アンの発音がつながった形。 L46
オタルナイ	Otarunay	固有名詞	小樽。 L52
オピッタ	opitta	副詞	すべて、全員。 L52
オマン	oman	自動詞	行く(単数形)。 L52
オヤ	oya	連体詞	ほかの。 L52
オヤク	oyak	位置名詞	ほかのところ。 L52
オンネ	onne	自動詞	年老いた。 L51
カ	ka	位置名詞	上。 L50
カル	kar	他動詞	～を作る。 L41、L52
カイ	kay	副助詞	か。 L48、L52
カネ	kane	接続助詞	～しながら。 L46、L50
カンピソシ	kampisos	名詞	本。 L42
キ	ki	他動詞/助動詞	～をする。 L41、L44、L45、L50
キム	kim	位置名詞	山。 L51
キラ	kira	自動詞	逃げる。 L51
ク	ku=	人称接辞	私。 L42、L44、L48、L52
クアニ	kuani	代名詞	私。 L52
クス	kusu	接続助詞	～ので、～から。～しに、～するために。 L45、L46、L49、L51、L52
クワシ	kuwas	名詞	お菓子。 L48
クン	kun	助動詞	～すべき。 L46
ケラアン	keraan	自動詞	おいしい。 L48、L52
コル	kor	他動詞	～を持つ。 L42、L43
コルカイ	korkay	接続助詞	～けど、が。 L52
コタン	kotan	名詞	村。 L46
コホラリ	kohorari	他動詞	～に住む。 L46
コヤイヌバ	koyaynupa	他動詞	～に気がつく。 L50
コンルスイ	konrusuy	他動詞	～がほしい。 L52
シリポプケ	sirpopke	完全動詞	暖かい。 L52
シクブ	sikup	自動詞	育つ。 L50
シトマ	sitoma	他動詞	～を恐れる。 L51
シヌイナク	sinuynak	自動詞	隠れる。 L51
シレバ	sirepa	自動詞	着く、到着する。 L52
シンケヘ	sinkehe	名詞	翌日(シンケ所属形)。 L52
ソイエンパ	soyenpa	自動詞	外に出る(ソイネの複数形)。 L51、L52



単語表

各レッスンの例文に掲載した単語です。Lの後の数字は掲載したレッスン番号です。

ソノ	sonno	副詞	とても。 L45、L52
タ	ta	格助詞	～に。 L47、L50、L51、L52
タニンマ	taaninma	副詞	こちらに。 L46
タパン	tapan	連体詞	この。 L52
タン	tan	連体詞	この。 L50
タント	tanto	副詞	今日。 L42
タンベ	tanpe	名詞	これ。 L52
チ	ci=	人称接辞	私たち(聞き手を含まない)。 L45
チオルクシテコ	ciorkusteko	副詞	こんなところで。 L50
チヌカルクル	cinukarkur	名詞	北斗七星。 L47
テク	tek	接続助詞	～して。 L50
テルケテルケ	terketerke	自動詞	飛び回る。 L46
トニンマ	toaninma	副詞	あちらに。 L46
トアンタ	toanta	副詞	あそこに。 L52
トゥミ	tumi	名詞	戦い、いくさ。 L51
トゥラ	tura	他動詞	～を連れる。 L51
トケシ	tokes	名詞	昼。 L52
トパットウミ	topattumi	名詞	侵略軍、盗賊。 L51
ナ	na	終助詞	～よ。 L42、L51、L52
ナンコル	nankor	助動詞	～だろう。 L49、L51
ニサッタ	nisatta	副詞／名詞	明日。 L47、L49、L52
ヌチャクテク	nucaktek	自動詞	うれしい。 L52
ヌブル	nupur	自動詞	力がある、偉大な。 L50
ネ	ne	デアル動詞	～だ、である。 L49、L50、L51、L52
ネブ	nep	疑問名詞	何。 L48
ネイ	ney	疑問名詞	どこ。 L47
ネコニキ	nekon iki	疑問副詞＋自動詞	ネコン イキの発音が続いた形。 L50
ネコン	nekon	疑問副詞	どのように。 L50、L52
ネワ	newa	後置副詞	～と。 L51
ノ	no	終助詞	～しましょう。 L41、L51、L52
ハー	ha	間投詞	出だしの掛け声。 L46
パイエ	paye	自動詞	行く(オマンの複数形)。 L44、L45、L47、L52
パイエカイ	payekay	自動詞	歩き回る(オマナンの複数形)。 L46
パイカル	paykar	名詞	春。 L52
パウ	paw	間投詞	キツネの鳴き声。 L46
ハエエエエ	haeEEEE	間投詞	折り返しの掛け声。 L46
ハヨク	hayok	自動詞	武装する。 L51
ピリカ	pirka	自動詞	よい、きれい。 L52
ピントロ	pintoro	名詞	ガラス。 L52
フミヒ	humihi	名詞	音(フムの所属形)。 L52
ペ	pe	形式名詞	もの。 L46、L50、L52
ヘカツタル	hekattar	名詞	子供たち。 L51
ヘタク	hetak	間投詞	さあ、早く。 L51

ホク	hok	他動詞	～を買う。 L52
ポ	po	名詞	子。 L46
ポウタリ	poutari	名詞	子供たち(ポウタルの所属形)。 L46
ポコインネ	pokoinne	自動詞	子だくさんである。 L46
ポロリムセ	pororimse	名詞	輪踊り。 L41
ポロンノ	poronno	副詞	たくさん。 L42、L49
マ	ma	接続助詞	ワ(～して)の発音が変わった形。 L46、L50、L52
ミ	mi	他動詞	～を着る。 L49
メアン	mean	完全動詞	寒い。 L42、L45
メウン	meun	自動詞	(人が)寒い。 L49
メノコ	menoko	名詞	女、女性。 L51
モム MOM	mommom	自動詞	流れ流れる。 L50
モンライケ	monrayke	自動詞	働く。 L49
ヤ	ya	終助詞	～ですか、～しますか？ L43
ヤカイエ	yakaye	助動詞	～そうだ。 L51
ヤクン	yakun	接続助詞／接続詞	～ならば。 L52
ヤッカイ	yakkay	接続助詞	～しても。 L49、L52
ヤマウ	yamaw	名詞	ヤマウ。 L41
ヤン	yan	終助詞	～しなさい。 L51
ル	ru	自動詞	とける。 L52
ルルモツペ	Rurmotpe	固有名詞	留萌。 L44
ルウエ	ruwe	形式名詞	～こと。 L52
ルスイ	rusuy	助動詞	～したい。 L44、L45、L48、L52
ルプシ	rupus	自動詞	凍る。 L45
ルラ	rura	他動詞	～を運ぶ。 L46
レス	resu	他動詞	～を育てる。 L46
ワ <sup>1</sup>	wa	格助詞	～から。 L52
ワ <sup>2</sup>	wa	接続助詞	～して。 L41、L46、L50、L51、L52
ワッカ	wakka	名詞	水。 L45

外来語

アルバイト	ARBEIT	名詞	アルバイト。 L44
鉛筆	ENPITU	名詞	鉛筆。 L43
オルゴール	ORGEL	名詞	オルゴール。 L52
車	KURUMA	名詞	車。 L52
スキー	SKI	名詞	スキー。 L45
寿司	SUSI	名詞	寿司。 L52
日曜日	NITIYOUBI	名詞	日曜日。 L52
みやげ屋	MIYAGEYA	名詞	みやげ屋。 L52
ラーメン	LAMIAN	名詞	ラーメン。 L52